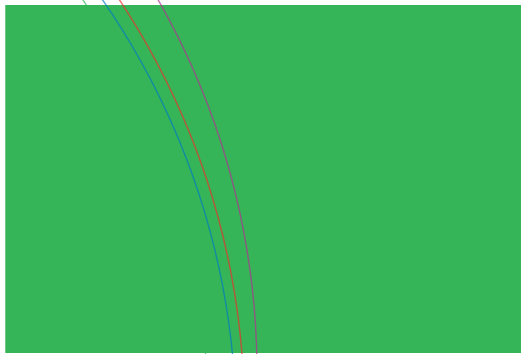


SDMI

System Design and Management

慶應義塾大学大学院
システムデザイン・マネジメント研究科



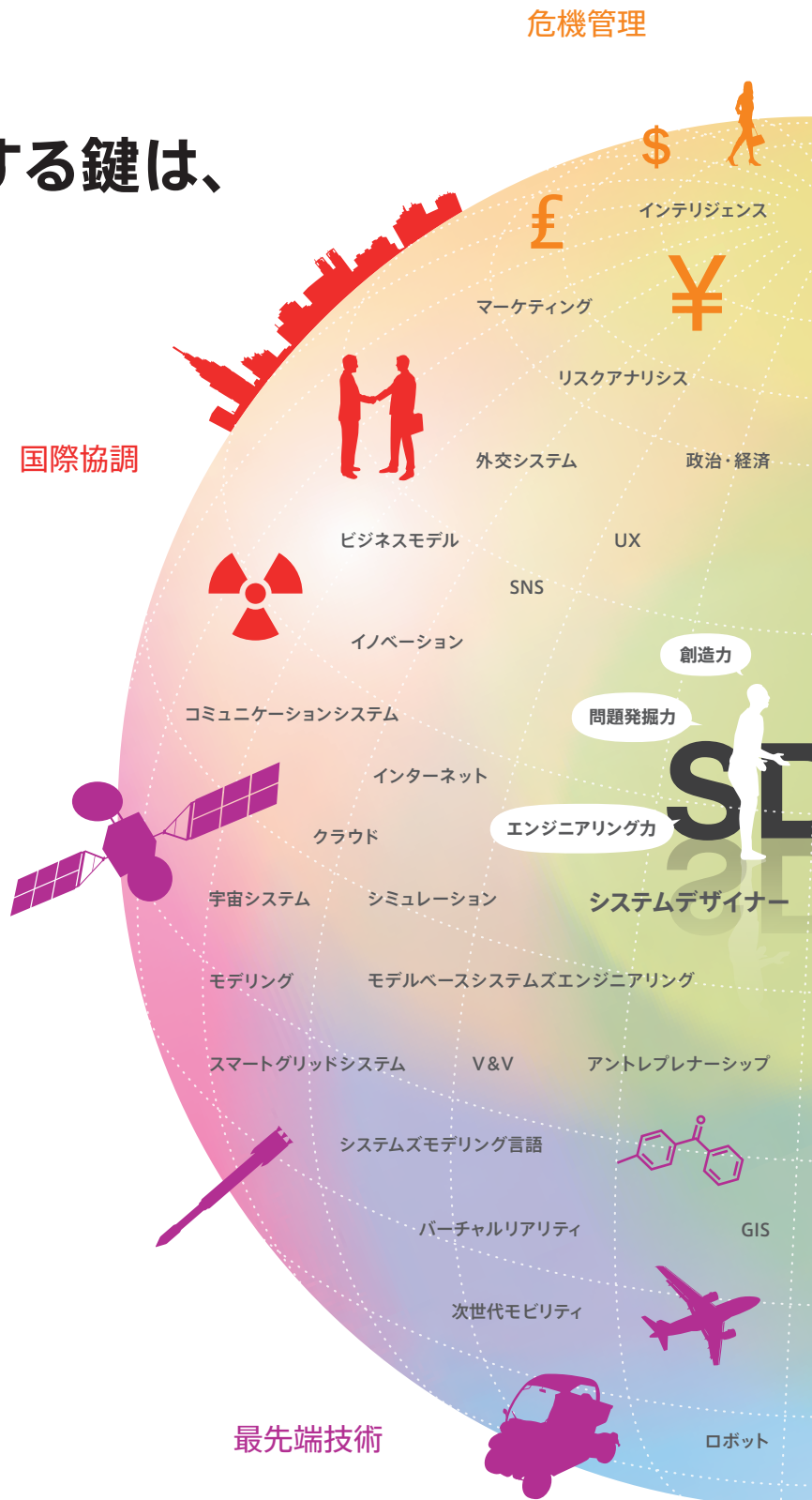
科学技術、社会、人間。 現代の諸問題を解決する鍵は、 システムにある。

現代社会の多種多様な問題の解決を図る 全体統合型学問

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科(慶應SDM)は、科学技術領域、社会領域、人間領域を問わず、広く「システム」という共通の視座から問題解決に取り組む独立大学院です。

現代社会においては、さまざまなシステムが大規模・複雑化し、数々のトラブルや事故、事件、紛争を引き起こしています。そうした問題を解決するためには、部分に特化する専門的学問だけでは不十分です。システムの全体と部分の関係を的確に分析し、解決策を創造的にデザインして、着実にマネジメントする全体統合型の学問=SDM学(システムデザイン・マネジメント学)とその実践が求められます。慶應SDMはそうした要請に応えるため、2008年に設立されました。

科学技術、環境問題、政治、安全保障、ビジネス、組織、コミュニティ、メディア、交通、教育、人間心理……慶應SDMでは、環境共生、安心・安全、最先端技術、国際協調、危機管理といった社会のニーズを考慮しつつ、あらゆる分野についてシステムの観点から研究と問題解決を行っています。現実世界の課題に挑み、未来を創るための研究と実践の場、それが慶應SDMです。





システムズエンジニアリングと デザイン思考の融合

慶應SDMの問題解決手法には大きく2つの柱があります。1つは「システムズエンジニアリング」。もともとは航空宇宙機器や軍事システムなどの大規模システムを、多数のスタッフにより着実なステップを踏みながら作りあげていくことを目的として発展しました。その後、都市、経営、医療、インターネットなどにも応用され、社会領域も取り扱うようになりました。2つめは「デザイン思考」。モノづくりをしながら自由に発想を広げていく開発手法で、フィールドワークやブレインストーミング、プロトタイプを使ったワークショップなどを通じて参加者のクリエイティビティを引き出すことを重視します。従来、システムズエンジニアリングとデザイン思考では考え方が相反すると思われてきました。しかし、システムズエンジニアリングだけではユーザーとの共感やクリエイティビティの飛躍が難しく、デザイン思考だけではシステムティックに具現化する面が不十分です。慶應SDMでは両者を組み合わせることによって大きなメリットが得られると考え、両者を補完し統合する開発手法を構築しました。日本はもちろん、世界でも先進的な取り組みです。

大きな構想を描き、 世界をリードしていく人材を育てる

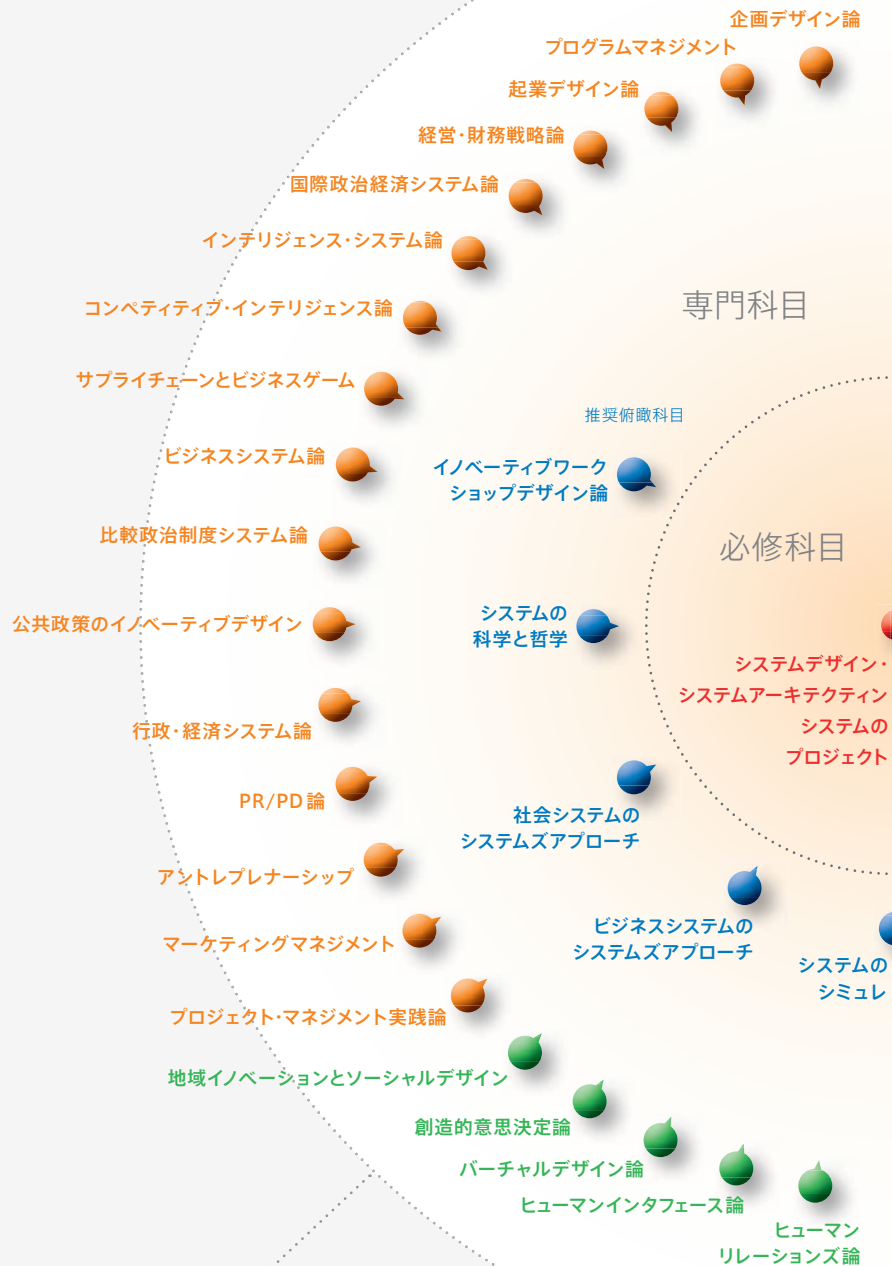
慶應SDMでは、全体統合型の解決策を提案しながらミクロのレベルまで解決策を精緻化できるシステムズデザイナーやプロジェクトリーダーの育成を図っています。現実世界の課題に対して大きな構想を描き、さまざまなステークホルダーとの調整を行いながらシステムを創っていくには、SDM学をマスターするとともに多くのスキルを身につける必要があります。エンジニアリング力、問題発掘力、創造力、統合力、コミュニケーション力、マネジメント力。こうした能力を備え、世界をリードしていく次世代リーダーを輩出するために、慶應SDMでは多様なプログラムを用意しています。

知識と体験、両面からアプローチし、 能力を広げていく。

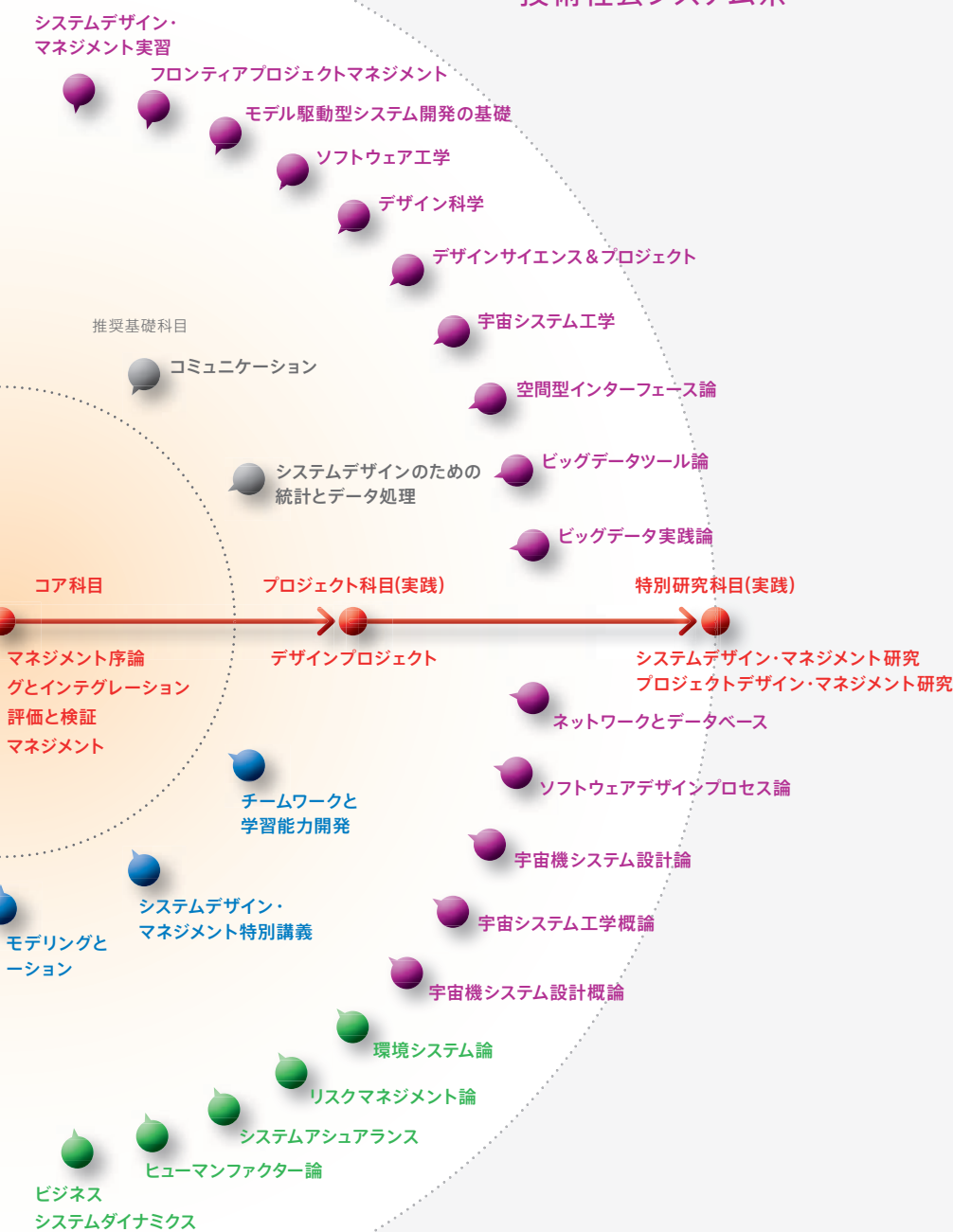
慶應SDMでは、SDM学の学問的基礎や専門分野の知識を学ぶとともに、現実の問題解決に取り組むカリキュラムを通じて実践の体験を積んでいきます。知識と体験を組み合わせることによって、システムを深く理解し、的確に構築・マネジメントしていく総合力を身につけられるようになっています。

政治・経済・ビジネス系

修士課程設置科目



システムズエンジニアリング・ 技術社会システム系



環境共生・安全・人間系

知識と体験を統合することで、システムに取り組む総合力を高めていく。それが慶應SDMのカリキュラムのコンセプトです。

修士課程では、まず必修のコア科目「システムデザイン・マネジメント序論」「システムアーキテクティングとインテグレーション」「システムの評価と検証」「プロジェクトマネジメント」を通じて、SDM学のベースとなるシステムズエンジニアリングの考え方と方法論を学びます。また、システムを構築するうえでの数学的基礎を理解するために「システムデザインのための統計とデータ処理」を、多くのの人々と協働していくうえでの基本的スキルを身につけるために「コミュニケーション」を、それぞれ履修することが推奨されています。

SDM学の基礎を学んだうえで、自分の興味や関心に従って専門科目を履修し、専門性を深めていくことができます。個別分野のシステムを扱う一般の専門科目と、複数の分野を横断的に捉える推奨俯瞰科目があり、さまざまな分野に向かって自分の知識を同心円のように広げていけるようになっています。

一方、慶應SDMでは実践的体験を重視しており、修士課程の学生は1年時の「デザインプロジェクト」で現実の課題にグループで取り組みます。そして、「特別研究科目」でさらなる実践的研究を行い、その結果を修士論文にまとめます。

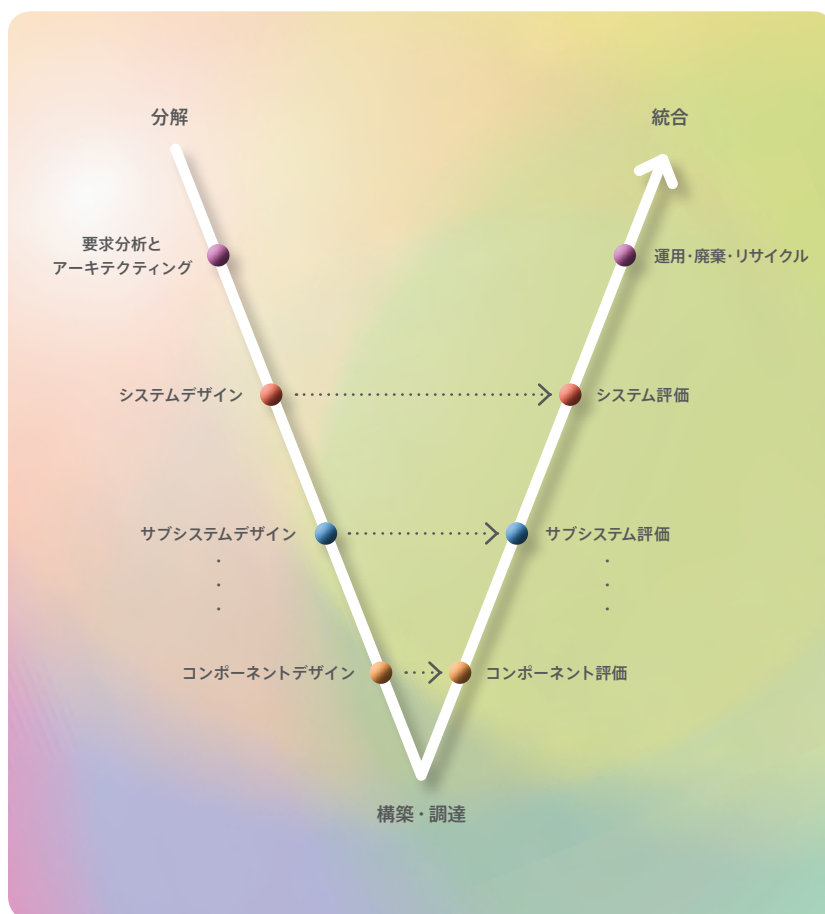
なお、左のカリキュラムは日本語の授業ですが、この他に英語の授業も多数開講しています。また、専門的研究に多くの時間を使って研究能力を磨く「リサーチインテンシブコース」と、すでに専門的能力を有する社会人を対象として講義履修に比重を置く「ラーニングインテンシブコース」の2コース制をとっており、経験とニーズに応じてコースを選ぶことができます。

後期博士課程は専門的な研究を中心に行う課程です。SDM学の基本を共有するために、コア科目やプロジェクト科目などの受講を強く推奨しています。

知識をつなぐ。

修士課程では、まずシステムズエンジニアリングの基礎と基本的スキルを習得します。
 そして、それをベースとしてさまざまな分野のシステムについて専門的に学んでいきます。
 全体に通底する物の見方・方法論を身につけつつ、各分野の多種多様な事例や解決策を学ぶことで、
 さまざまな知識をつなぎ、真に役に立つ知恵へと昇華させていくことができます。

修士課程に入った学生は最初にシステムズエンジニアリングの重要な概念であるVモデルについて徹底的に学びます。
 Vモデルでは「分解」と「統合」によってシステムを構築していきます。Vの左側が分解、右側が統合です。大規模・複雑なシステムを、サブシステムからより小さな単位へと順次分解していき、全体から詳細までのデザインが終了したら、システムを順に統合していきます。Vの左から右に向かう矢印は、デザインの各レベルに対応して検証と有効性確認 (Verification and Validation) を行うことを表しています。
 Vモデルは全体と部分の関係性を捉えるための大きな枠組みとして活用でき、科学技術領域、社会領域、人間領域の幅広いシステムの開発に応用できます。Vモデルをベースとすることによって、別種のシステムや複合したシステムの開発も行えるようになります。
 Vモデルの基礎知識を習得した後は、さまざまな専門科目を履修していきます。Vモデルという共通の枠組みを通じて、ばらばらだったさまざまな知識をつなぎ、自分の中で体系化していくことができます。



Vモデルは「分解と統合」、「デザインと評価」が重要であることを表しています。慶應SDMでは、Vのはじめに要求分析とシステムアーキテクティングがあることを強調します。地球環境・社会環境から他社・顧客まであらゆるステークホルダーからの多様な要求を確実に定義し、情報共有して、システムの全体像をアーキテクティングしたうえで、Vモデルに基づく分解と統合、デザインと評価(検証と有効性確認)を行います。



先導者達の知恵に学ぶ。 SDM特別講義

過去の実施例（肩書きは当時のもの）

池上 彰（ジャーナリスト）「世界地図を読み解く」

池田 守男（(株)資生堂相談役）「2020年に描く新しい公益の姿」

北城 悟太郎（日本アイ・ピー・エム(株)最高顧問）「日本経済の課題とイノベーションによる経済成長」

紺野 登（多摩大学大学院経営情報学研究科教授、KIRO(株)代表）「知識経営とデザイン」

坂根 正弘（コマツ代表取締役会長）「コマツの経営構造改革 ～強みを磨き、弱みを改革～」

松岡 正剛（編集工学研究所所長・イシス編集学校校長）「編集のシステムの思考とは」

村上 憲郎（(株)村上憲郎事務所代表取締役、元・グーグル米国本社副社長兼日本法人社長）「スマートグリッドが切り開く新生スマート日本」

山崎 直子（宇宙飛行士）「宇宙機におけるシステム設計」

大規模・複雑化した現代のシステムに挑むには、書物のうえの知識や日々の体験だけでは足りません。SDM特別講義は、現代社会の最前線で優れたシステムを成功裏に創りあげた先導者達のさまざまな知恵——システムデザイン・マネジメントのグッドプラクティス——を学ぶ場です。経済界、政界、科学技術界など、各界の第一人者を招き、膝を交えて議論を戦わせることができます。現代の大規模・複雑システムと格闘した先導者達の内々に蓄えられた知恵と人間性から何かを吸収する貴重なチャンスです。

社会人学生にも 学びやすく。

慶應SDMには、社会人として仕事しながら通っている学生も大勢います。そうした学生も学びやすいよう、さまざまな工夫を行っています。

5時限は17時15分から、6時限は19時から開始し、土曜日一日中授業を行っています。また、多くの授業をビデオに収録し、アーカイブ教材として保管しています。e-learningはそうした教材をインターネット経由で事後に視聴し、単位の取得を行える仕組みです。履修申告した授業を遠隔地での学習や自宅での復習のために視聴できます。



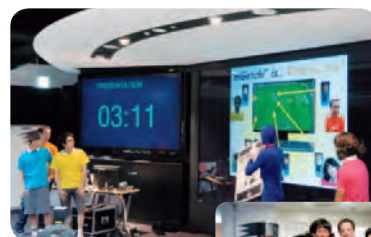
現実の課題に立ち向かう。

慶應SDMでは、さまざまな分野のシステムについて単に知識を得るだけでは終わりません。

新しいシステムを提案し、その成果を検証することを重視しています。

修士課程の学生は「デザインプロジェクト」や特別研究科目で現実の課題に取り組み、実践経験を積むとともに、学んだ知識を、体験を通じて自分の血肉にしていきます。

基本から実践へ。デザインプロジェクト



「Safety and Security」という大テーマのもと、学生チームが導き出したソリューションの例

安全とセキュリティのブランドイメージ創造
— 好循環ビジネスモデル

プロポーザー：アディダスジャパン株式会社

ワクチン冷蔵装置向けバックパック型
マルチエネルギーシステム

プロポーザー：株式会社インフラ・イノベーション研究所

日本における安心・安全な太陽光発電
— デュアルモードソーラーパネルシステムの検証

プロポーザー：デルフト工科大学

安全に関するプレミアムポイントシステム

プロポーザー：スズキ株式会社

交通事故リスク削減を目指した
自転車シミュレーターのデザイン

プロポーザー：東芝システムテクノロジー株式会社

修士課程の1年時に履修するデザインプロジェクトはシステムの構築とマネジメントを実践する第一歩といえます。

学生は、まず考え方・方法論・手法の基本を学びます。次に実践的学習を行い、海外連携大学から招いた講師による講義を受けます。さらにプロポーザーから提案されたテーマにグループで取り組み、問題解決の提案を行います。

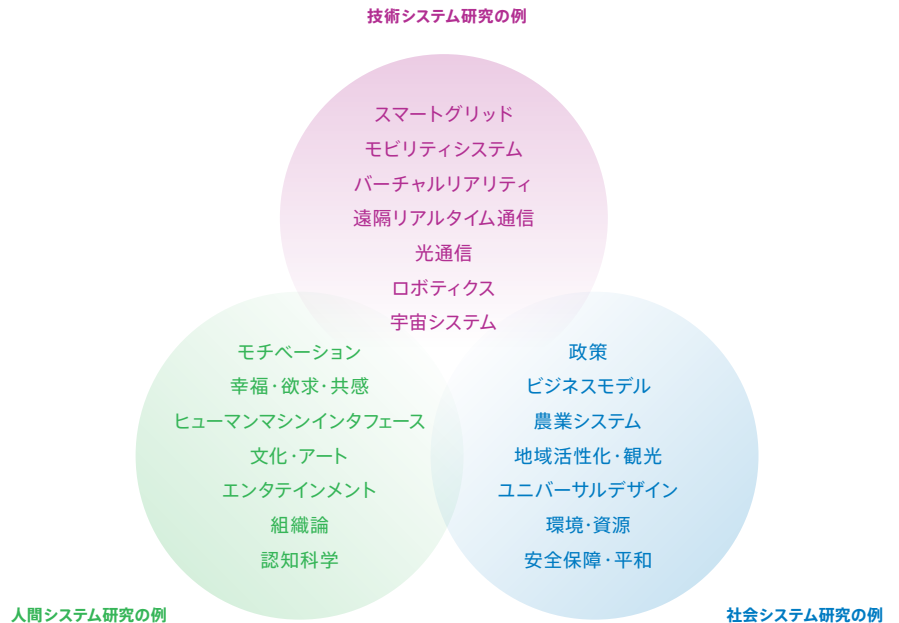
システム思考×デザイン思考を体験

デザインプロジェクトではコア科目で学んだシステムズエンジニアリングやシステム思考

を実践するとともに、デザイン思考のプロセスと手法を実体験の中で学びます。デザイン思考はクリエイティブなデザインの実現を目指す開発手法で、人々の行動を観察するオブザベーション、グループによるブレインストーミングやワークショップ、実際にモデルを作りながら人々の共感を高めていくプロトタイピングを重視します。慶應SDMではVモデルに従ってデザイン思考のプロセスと手法を独自に整理しており、従来のデザイン思考よりシステムティックでイノベティブな方法を学ぶことができます。グループで提案した新しいシステムは、さらに修士論文や政策・新規事業・起業にもつながっています。

ラボに参加し、実践的研究を論文にまとめる。 特別研究科目

修士課程の研究の中心は特別研究科目の「システムデザイン・マネジメント研究」と「プロジェクトデザイン・マネジメント研究」です。学生はラボ(研究ユニット)に参加しながら、2年間(標準)にわたって特定のシステムの研究に取り組みます。学生同士の連携、複数の教員と学生の連携、共同研究企業や他大学との連携など、協働により研究を行うことを強く推奨しています。複数のラボに参加して研究することも可能です。研究の成果は修士論文としてまとめます。慶應SDMで得た知見と体験の集大成とすることが期待されます。

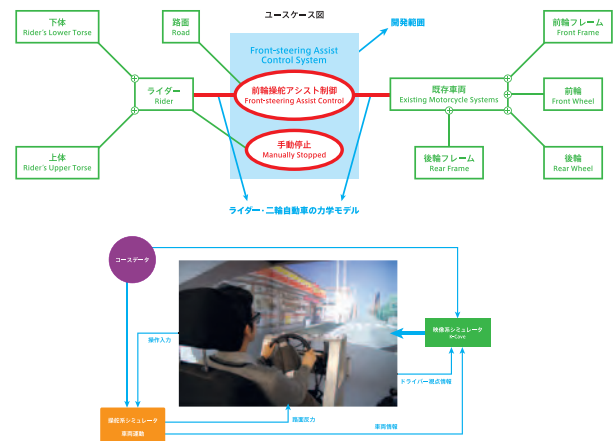


研究事例

技術・社会システムデザインの研究

大規模・複雑な技術システムや社会システムの課題を解決するため、モデリングとシミュレーションを駆使し、安全で高信頼のシステムをデザインしています。要求と機能を明確にしたうえで、概念設計の候補を洗い出し、V&V(Verification and Validation)を計画し、実行します。右の事例は、システムズモデリング言語SysMLを用いた次世代モビリティシステムの提案と、没入型ドライビングシミュレータを援用したシステムデザインです。他にも、エネルギーマネジメント、スマートグリッドシステム、モビリティシステムマネジメント、次世代GPSシステム、光通信システム、コミュニケーションシステム、ヒューマンマシンシステム、宇宙システム、ビジネスシステム、NPO/NGO、政治・経済・外交システム、文化・アートシステムに関する研究を行っています。

SysMLなどのモデリング・シミュレーションを使った研究例



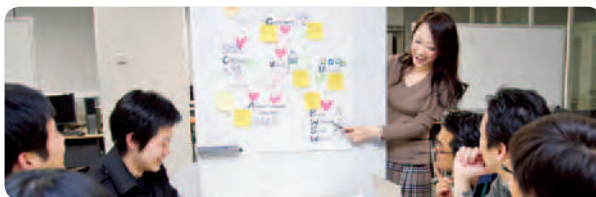
人間中心システムデザインの方法論・手法の研究

SDM学の基盤であるシステム思考・デザイン思考の研究や、ワークショップを推進するための基本的な方法論や手法の開発も行っています。下記の事例は、ステークホルダーの関係性を明らかにするのみならず、行為の原因となるさまざまな欲求を分析する欲求連鎖分析(WCA, Wants Chain Analysis)の開発と、それを用いたデザイン思考ワークショップの有効性に関する研究例です。利己的な欲求と利他的な欲求の関係性を明確化することで、一般のビジネスモデル、CRM(Cause Related Marketing)、社会企業、公共施策などのデザインが可能となります。方法論、手法の提案の他にも、モチベーション、共感や感動、イノベーション教育の研究など、人間に関するさまざまな研究を行っています。

人間・社会システムの問題発見と解決策提言に関する研究



不耕作地×中高年労働者×自然栽培というソリューションとアンケート調査による研究例



WCAの提案と、それを用いたデザイン思考教育に関する研究例

社会や事業体における課題はステークホルダーが多様で、利害も複雑に関連し合っています。新規事業、起業、NPO/NGO、政治、経済、外交、防衛、文化などが関係し合う人間・社会システムにおいて、ステークホルダーの関係と物事の関係性を明確化することにより、局所解ではなく、全体最適解を求める研究を行っています。地域活性化から安全保障、幸福、平和までさまざまなテーマの研究があります。例えば、上記の例では、自然栽培という新しい農法と、耕作放棄地、中高年失業者を組み合わせる新たなビジネスモデルを提案し、新規事業を展開する実践的な研究を行っています。

全体と部分の関係を捉え直すことで、世界を変え、

多様な分野を共通の視座で捉える

慶應SDMでは科学技術領域も、社会領域も、人間領域も、全体統合されたシステムという共通の観点から捉えます。ステークホルダーやサブシステム、コンポーネントの関係を図式化、数値化して全体の構造を把握したうえで、デザインしたものを的確に作り、運用していく。それが慶應SDMの基本的なコンセプトです。

こうした考え方に立つと、ロケットも、ソフトウェアも、政策も、ビジネスも、あるいはそれらの組み合わせも、同じ目線で捉えられるようになります。例えば、新幹線は技術的には素晴らしいけれども、輸出しようとするとなかなかうまくいかない。それはビジネスや政治の面をうまく取り込んでいないからで、SDM的な発想をするとそうした複合的な問題も解いていけるようになるんですね。

もう少し詳しく説明しましょう。システムズエンジニアリングに「Vモデル」と呼ばれるプロセスモデルがあります。全体を段階的にコンポーネントに分解して評価・検証しながら統合していくという手法で、科学技術分野にも、社会にも、あるいは人間や人生といった事柄にも活用できます。例えば、私の研究室ではVモデルに従って「幸福」の研究をしています。幸福という概念を分解してみると、「人に親切にする」「友達の種類が多い」といった50個以上の要素に分解できることがわかっています。しかし、部分を取り出しただけでは、全体、つまり本当の幸福にはならない。私たちは、それらの要素がどのように関わりながら全体の幸福を形作っていくのかを研究しています。

同じように政策や経営、まちづくり、さらに芸術ですらシステムと捉えて研究している学生がいますし、さまざまな科学技術分野に取り組んでいる学生もいます。部分に分

けて階層化して考えることによって、これまでとは異なる発見が生まれるし、問題が解きやすくなるんです。

ただ、もしかしたら文系の人は「アーキテクティング」といった類いの言葉に最初は戸惑いを覚えるかもしれませんね。しかし、頑張ってそこを乗り越えたら、システムティックな視点と、物事を広く捉える視野が身についてきます。今まで自分が漠然と理解してきたことがきれいに分解されて整理された形で頭に入ってくる。システムティックに物事が見えてくるし、発見も生まれる。応用力もつく。それが本当に面白い。

面白いといえば、例えば、政策提言をしている学生と宇宙ステーション開発に取り組んでいる学生が、全然違う分野なのに「今、アーキテクティングのフェーズで〜」と同じ言語で議論したりしています。これも慶應SDMならではの一体感です。

全体最適という問題意識を持つ人に

すでに何らかの専門的なコアを持っているけれどもそれだけでは問題を解けないと考えている人が慶應SDMには向いていると思います。例えば、機械工学だけではロケットを作れないし、経済学だけでは政策を作れませんよね。そういうふうに、全体最適という視点について強い意識を持っている人にとって、慶應SDMはぴったりの研究科といえるでしょう。分野は問いません。システムとして取り扱えるものならどんな分野でもいい。現状の学問だけでは飽きたらず、全体の問題として取り扱いたいという方、一緒に新しい学問と新しい問題解決策をイチから創っていきこうという熱意あふれる方に、ぜひ来ていただきたいですね。

つまり、「木を見て森も見ろ人」。それが、慶應SDMが目標とする人材の姿です。部分も

見るし、全体も見る。スペシャリストでありながら、ジェネラリスト。そういう人はリーダーに向いています。私たちは、あらゆる分野におけるリーダーになれる人を育てたいと考えています。

思いもよらない自分になれる

慶應SDMの学生は過半数が社会人で、文系と理系が半々です。経営者、エンジニア、官公庁職員、アーティスト、弁護士、医師、あらゆる職種、あらゆる年代の人が集まっています。専門分野で経験を積んで何らかの問題意識を持っている人が多いので、モチベーションがとても高いですね。授業で「何か質問のある人」と訊くと、競うように手が挙がって、熱い議論になります。だから、私も本当に楽しいんですよ。「世界を変えたいし、自分を変えたい」という熱意のある人が本当に多い。

いろんな専門分野の人がいますから、そこから刺激を得て新しいテーマに取り組んでいく人もたくさんいます。ある修士生が、「ビジネススクールに行くと思いついていた自分になれる。慶應SDMに行くと思ってもよらない自分になれる」と話してくれました。私たちはまさにそういう研究科を目指しています。

慶應SDMと一緒に創っていきましょう

学生も多彩なら教員陣も多彩です。慶應SDMは現実世界の問題を取り扱うことを重視していて、しかも扱う分野が多様多様ですから、専任教員のほか、特別招聘教員や、特任教員、講師として幅広い分野の企業経験、海外経験豊富な教員に来ていただいています。エネルギーで世界を変えたいと思っている方ばかりです。よくある「縦割

自分を変える場所。それが慶應SDMです。

り型」「たこ壺型」を廃したフラットな体制が特長になっています。専任型のラボだけでなく、横断型のラボもたくさんあって、ひとつのラボに複数の教員が参加しています。ラボは新しく組織されたり、多くの学生や教員が入って成長したり、終了したりと、常にアメーバのように動いています。

慶應義塾では「半学半教」というのですが、慶應SDMでは学生、教員を問わず、互いの専門性に敬意を払いながら半分教えて半分学ぶということが自然に行われています。

す。新しい学問分野だし、新しい研究科だから、教員と学生が一緒になって自分たちでどんどん創っていける。そうした雰囲気は研究科の活気につながっていると思いますね。私たちは研究・教育の最先端領域でキラキラした存在であり続けたい。だから、私は「慶應SDMは常に未完成だ」と言い続けているんです。学生と教員が一緒になって新しいことに果敢に挑みたいし、新しく入られる方にも、慶應SDMを創っていく活動にぜひ参加していただきたい。そう願っています。

慶應義塾大学大学院
システムデザイン・マネジメント研究科委員長
前野 隆司



多彩なキャリアと研究分野が重なり合って、 新しい挑戦が生まれる。

専任教員



前野 隆司 まへの たかし 研究科委員長／教授
キヤノン(株)、カリフォルニア大学バークレー校、ハーバード大学、慶應義塾大学理工学部を経て現職。

専門分野: 人間システムデザイン(社会・コミュニティ、イノベーション、教育、地域活性化、農業、NPO、ヒューマンインタフェース、国際貢献、認知科学・哲学など)。

著書:「思考脳力のつくり方」(角川新書)、「幸せのメカニズム」(講談社)など多数。



五百木 誠 いおき まこと 准教授

三菱電機(株)、一般財団法人宇宙システム開発利用推進機構を経て現職。

専門分野: システムズエンジニアリング、人工衛星システム設計、宇宙システムのフォールトトレラント設計。地球観測衛星ビジネスの産業化、宇宙ビジネスの海外展開に関する戦略立案と調査経験。



小木 哲朗 おぎてつろう 教授

三菱総合研究所、東京大学助教授、筑波大学准教授を経て現職。

専門分野: ヒューマンインタフェース、バーチャルリアリティ、臨場感コミュニケーション、ビジュアル・シミュレーション。

著書:「サイバースペース入門」(日本実業出版社)、「シミュレーションの思想」(東京大学出版会)などがある。



神武 直彦 こうたけ なおひこ 准教授

宇宙航空研究開発機構、欧州宇宙機関を経て現職。

専門分野: 宇宙システムから街づくりまで社会技術システムのデザインとマネジメント、イノベーション、国際連携。IMESコンソーシアム代表幹事、一般社団法人GESTISS理事、アジア工科大学訪問准教授。

著書:「エンジニアリングシステムズ」(慶應義塾大学出版会)「位置情報ビッグデータ」(インプレスR&D)など。



白坂 成功 しらさか せいこう 准教授

元・三菱電機(株)。

専門分野: システムズエンジニアリング、イノベーション、イノベティブデザイン、宇宙システム工学、システムアシュアランス/機能安全、標準化等。宇宙開発から社会システム、デザイン方法論、安全・安心デザインまで、世界をイノベティブにリ・デザインするための研究・教育を実施。



高野 研一 たかの けんいち 教授

元・(財)電力中央研究所上席研究員。

専門分野: 大規模技術システムにおける組織の安全文化醸成、リスクマネジメント・ヒューマンファクター。組織診断・組織活性化、事故の根本原因分析など、豊富な安全管理の実務、コンサル経験。

著書(訳書):「組織事故」「保守事故」(日科技連出版)など。

特別招聘教員・特任教員

狼 嘉彰 おおかみ よしあき SDM研究所顧問／講師

SDM研究科前委員長・前教授、東京工業大学名誉教授。慶應義塾大学システムデザイン工学科教授、宇宙開発事業団研究総監を歴任。専門分野は、戦略的システムズエンジニアリング、複雑システムのダイナミクスと制御。

日比谷 孟俊 ひびや たけとし SDM研究所顧問／講師

SDM研究科前教授、元・首都大学東京システムデザイン研究科教授。元・NEC基礎研究所主席研究員、日本学術会議連携会員。2014年に国際宇宙ステーション欧州モジュールで融体熱物性測定実験を実施予定。

福田 収一 ふくだ しゅういち SDM研究所顧問

Consulting Professor, Stanford University。専門分野: デザイン工学、感情工学、満足化学、協調工学、技術経営、産産連携(並列分散処理化、自律分散経済化)、工学の戦略的展開(いかに現有資源で発展するか)、Personal Fabricationなど。

秋元 諭宏 あきもと さとひろ 特別招聘教授

三菱商事企画業務部長代行 戦略情報担当部長 国際諮問委員会事務局長。2003~2010年までワシントン事務所長。慶應SDMではSDM特別講義を担当。

小林 正弥 こばやし まさや 特別招聘教授

千葉大学大学院人文社会科学部研究科教授。東京大学法学部助手、ケンブリッジ大学社会政治学部客員研究員及びセルウィン・コレッジ準フェローを経て現職。専門は、政治哲学、公共哲学、比較政治。

紺野 登 こんの のぼる 特別招聘教授

KIRO(知識イノベーション研究所)代表、多摩大学大学院経営情報学研究科教授。知識創造理論にもとづくイノベーションやデザイン思考など、知の創造の組織的・社会的生態(ナレッジ・エコロジー)をテーマとする。

佐々木 経世 ささき けいしん 特別招聘教授

日本鋼管(現JFEスチール)を経てマサチューセッツ工科大学でMBA取得、ブーズ・アレン・アンド・ハミルトン(現ブーズ・アンド・カンパニー)、ソフトバンクを経て、1999年にイーソリューションズを設立し代表取締役社長に就任。慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任教授、観光産業政策検討会委員も務める。

田子 学 たごま なぶ 特任教授

株式会社東芝デザインセンター、株式会社リアル・フリートを経て、2008年株式会社エムテドを立ち上げる。現在は幅広い産業分野のデザインマネジメントに従事。デザインを社会システムの一部として大いに活用してもらうことをモットーに、様々な要素の関係を統合的に捉えた戦略によって、個別最適化ではなく全体適正化が成り立つコンセプトメイクからブランドの確立を視野に置いてデザインしている。慶應SDMではデザインプロジェクトを担当。

中嶋 間多 なかじま もんた 特別招聘教授

事業構想大学院大学教授 事業構想研究科長 & 事業構想研究所実践知研究センター長、地域活性化学会理事。SDMでは地域活性化ラボに参画。専門は応用情報学・情報経営論、企業経営・地域経営を主な研究テーマとしている。最近は、地域活性化をキーワードに、地域イノベーション、地域マーケティング、地域ブランディングの研究にも取り組む。

慶應SDMは、大きな構想を描いて世界をリードしていける人材を育てること、そして現実世界の問題を解決していくことを重視しています。そのため、教員陣には産業界出身者や海外経験豊富な人物など、狭い学問の殻に籠らない多彩な教員を揃えています。社会のさまざまな側面を実体験してきた教員たちが学生を導き、サポートし、共に行動します。それぞれのバックグラウンドや関心分野も幅広く、慶應SDM独特の壁のない知的交流のなかで、さまざまな新しい研究や活動が生まれています。



谷口 智彦 たにぐち ともひこ 教授

日経ビジネス記者、外務省外務副報道官、内閣審議官等を経て現職。

専門分野：国際政治経済学(通貨体制、金融システム)、日本外交、パブリック・ディプロマシー

著書：「通貨燃ゆ：円、元、ドル、ユーロの同時代史」、「金が通貨になる」、「明日を拓く現代史(本研究科講義録)」、「上海新風」などがある。



当麻 哲哉 とうま てつや 准教授

元・米国3M社 Advanced Product Development Specialist。

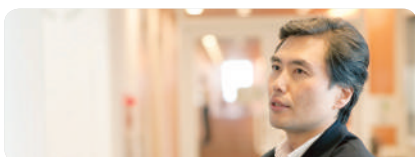
専門分野：ブロードバンド社会の先端コミュニケーションシステムの開発とマーケット創出。グローバル企業開発技術者として海外で豊富なプロジェクトマネジメントを経験。製品の市場導入、売り上げ貢献で受賞多数。



中野 冠 なかの まさる 教授

元・(株)豊田中央研究所。

専門分野：ビジネスシステム、サプライチェーン、マーケティング、先進都市システム、環境・エネルギー・資源問題などを研究。社会システムやビジネスの問題を文理融合型手法で解くメソッドロジーの研究。日米欧アジアとの国際共同研究プロジェクトを多数経験。



西村 秀和 にしむら ひでかず 教授

専門分野：次世代モビリティ制御システム設計、モデルベースシステムズエンジニアリング、道州制のシステムデザイン。

著書：「システムズモデリング言語SysML」(監訳)「MATLABによる制御理論の基礎」「MATLABによる制御系設計」(共著)(東京電機大学出版局)など。企業等からの共同研究、講演依頼など多数。



春山 真一郎 はるやま しんいちろう 教授

ベル研究所 Member of Technical Staff (MTS)、ソニーコンピュータサイエンス研究所先端情報通信研究室リサーチチャ、慶應義塾大学理工学部訪問教授等を経て現職。

専門分野：コピキタス社会におけるトータルなハード・ソフト・通信システムのデザイン、ITサービス・アプリケーション開拓、新ヒューマンインタフェース開発。

濱口 秀司 はまぐち ひでし 特別招聘教授

コンセプトクリエイター、ビジネスデザイナー。松下電工を経て、米国のデザインコンサルティング会社 ziba で世界初のUSBフラッシュメモリのコンセプト開発等を行う。パナソニック電工米国研究所上席副社長、ziba 戦略ディレクターを経て、2013年、米国でビジネスデザインファーム monogoto を創業。

保井 俊之 やすい としゆき 特別招聘教授

旧大蔵省入省後、OECD や金融庁等を経て08年から慶應SDM で教壇に立つ。政策研究大学院大学客員教授を兼務。地域や政策など社会システムが研究領域。ICUより博士(学術)。「『日本』の売り方」(角川oneテーマ21)等著書・論文多数。

富田 欣和 とみた よしかず 特任講師

イノベティブデザインLLC、株式会社インナーライズ53代表。2012年度よりデザインプロジェクト科目を担当。2013年度よりシステムデザインマネジメント序論、起業デザイン論、イノベティブワークショップデザイン論も担当。

林 美香子 はやし みかこ 特任教授

キャスター・エコライフジャーナリスト。札幌テレビ放送アナウンサーを経て、独立。北海道大学大学院農学研究院客員教授。慶應SDM では農都共生ラボ(アグリゼミ)を主宰。

吉田 篤生 よしだ あつお 特別招聘教授

吉田篤生会計事務所・所長税理士。企業の現場に密着した総合コンサルタントとして、企業再生事業承継等に取り組みしており、独自の「会計物語論」を展開している。

石橋 金徳 いしばし かねのり 特任助教

株式会社本田技術研究所 二輪R&Dセンター、東京大学工学系研究科 航空宇宙工学専攻 学術支援専門職員を経て2013年度より現職。innovative DESIGN LLC パートナー。専門分野：システムズエンジニアリング、モデルベース開発、イノベーション戦略。

藤崎 一郎 ふじさき いちろう 特別招聘教授

元アメリカ合衆国特命全権大使。慶應SDM ではSDM 特別講義を担当。

矢野 創 やの はじめ 特別招聘准教授

現・宇宙航空研究開発機構・宇宙科学研究所・学際科学研究系助教。PMP。「はやぶさ」など、日欧米で10余りの宇宙探査・実験プロジェクトに従事。

迷ったときに戻るところ。 学びの基礎に立ち返る場所です。

修了生 岩澤 ありあ

2010年春入学、2012年3月修士課程修了
2010年3月慶應義塾大学理工学部物理学科卒業
勤務先: 電機メーカー



大学の学部では宇宙物理学の分野で研究を行っていました。慶應SDMを選んだ理由ももっと社会に寄り添った研究をしたいと思ったから。入学して、お客様からの要求を聞き出し、その定義を文章化していくことを学べたことはよかったです。相手にきちんと伝えるためには使う言葉をしっかり定義することが大切だと最初に教わりました。慶應SDMで印象に残っている授業はデザインプロジェクトです。6人のチームに分かれて実際の企業から出された課題に約7カ月間にわたって取り組みます。私たちは自転車事故を減らすための自転車シミュレーターを設計するという課題を与えられたのですが、まず自転車事故が起きる要因を調査し、そもそもシミュレーターを作ることが最善の解決策なのか問い直すことから始め

ました。事故統計を調べたり、自転車店、国土交通省、関連団体といったステークホルダーにインタビューしたりと、自分たちの足を使って生の情報にアクセスしました。最終的にシミュレーターの形にまとめるだけでなく、特許を調べてビジネスモデルを考えるとどこまで踏み込めたのも貴重な経験でした。慶應SDMで学ぶことによって、世の中のあらゆるものを見て興味を持ち、それが生まれた背景について考えられるようになりました。ものの見方が変わりましたね。この春、電機メーカーに就職しました。大きな製品を扱うのでとても1人では実現できません。慶應SDMで学んだチームワークやコミュニケーション力を活かしながら、一緒に仕事をしていると安心してきて楽しいと思われたいです。

在学生・修

スキルアップと同時に 世界が広がっていく。

在学生（後期博士課程） 大塚 有希子

2010年春入学
2010年3月大阪市立大学大学院創造都市研究科修士課程修了
勤務先: (株)富士ゼロックス総合教育研究所

現在、シンクタンクに勤務しており、ITや金融、流通系の企業におけるプロジェクトマネジメントのコンサルティングを行っています。慶應SDMに入学したのはプロジェクトマネジメントについてより深く研究し、スキルを高めたかったから。博士課程では授業に出席する義務はありませんが、興味のある内容は積極的に聴講しますし、仕事があって学校に行けない場合もe-learningで学ぶことができます。その他の時間は担当教員と相談しながら論文を執筆しています。私の研究テーマはプロジェクトマネジャーのコン

ピテンシーについてで、過去の論文では、IT系のプロジェクトマネジャー200人にアンケートを取り、マネジメントのやり方とプロジェクトの成功の関連についてまとめました。現在はプロジェクトを成功させるプロジェクトマネジャーにはどんな特質があるかというテーマで、性格や仕事のやり方、部下への接し方などを調べているところです。博士課程では担当教員と二人三脚で進めていくのが普通ですが、慶應SDMのよいところは担当以外の先生もよく面倒を見てくださることです。例えば「こんな本を読んでい

る」とある先生に話すと、それを翻訳しているチームや勉強会に誘ってくれたり。頭でっかちではなく、リアルに踏み込んだ世界を紹介してもらえます。

今はある先生の薦めで、プロジェクトマネジメントの国際資格を取るための集中講義の講師を務めています。そうしたさまざまなチャンスや情報に好奇心を持ってどんどん食らいついていけば、慶應SDMはとても楽しく学べる環境だと思います。





本当にやりたいことがあれば 何でもやれる自由度の高さがあります。

修了生 川合 潤

2009年秋入学、2011年9月修士課程修了
1999年5月Boston College, Arts and Science (Physics) 卒業
勤務先: ソニー(株)

ソフトウェアエンジニアとして働きながら慶應SDMに通いました。会社が終わってから学校で授業を受け、グループワークを行い、深夜に帰宅して宿題や研究をこなすという生活です。1日睡眠3時間以下というきつい期間もありましたが、毎日刺激的で何もかもが楽しかったので続けられたと思います。仕事を続けながら学ぶのもいいと思いますね。学校で習ったことを次の日会社で実際に使ってみることができ、うまくいかなければすぐに先生に相談できるから。また、会社と学校という異なる環境を行き来すること

で僕自身のリフレッシュにもなりました。専門外のさまざまな授業を積極的に受け、ある授業をきっかけに、本来の専門とは違うテーマである人材の能力開発について研究しました。先生に相談して研究ラボを作り、納得するまでやりました。本当にやりたいことがあれば何でもやれる自由度の高さが慶應SDMにはあります。

この研究が後押しする形で、以前より興味のある人事部に希望して異動し、今はエンジニア育成や教育の仕事をしています。直接モノづくりに携わるだけでなく、全体最適の

視点で人材の能力を高めていくことも大きな貢献ではないかと思うようになったのです。現在の人事も個別最適化されているところがある。しかし、会社全体として本当にこれでいいのか整理してみたいと今、考えています。もし慶應SDMに行かなかったらエンジニアを辞めていなかったでしょうね。僕にとって慶應SDMとは次のステージに行くための試練の場みたいなものでした。特に、専門性を持ちながらも全体像をつかみ切れていないことにストレスを感じている人にお薦めしたいですね。

了生の声

知識を結ぶネットワークが見えてきた。

農学部を卒業後、民間企業に勤務していました。研究職に始まり、商品開発、品質管理、営業と経験するうち、日本の仕組みそのものに対する問題意識が生まれてきて、会社を辞め、慶應SDMに入りました。他業種の人の知見や対話を得られる環境を求めているのです。

授業ではプログラミング、シミュレーション、統計、哲学と幅広い領域を網羅するため最初はとにかく必死でカリキュラムをこなすだけでした。しかし、システムという物事を動かす本質を勉強していると、やがてひとつひとつの知識を結ぶ共通項やネットワークが見えてくるんですね。思考がドライブするというか、頭の中で物事がどんどんつながっていく。扉をぶち破ったような感覚があって、とても楽しかったです。

慶應SDMは留学のチャンスも豊富で、私も入学してからパリにある専門大学院のプロ

グラムに参加しました。研究もさることながら、日本とフランスの考え方の違いにふれることができたことが大きかったです。留学はチャンスがあればぜひチャレンジすると思います。

ロジカルシンキングやコミュニケーションといったテクニカルな授業も今の仕事に生きています。勉強の量が尋常じゃないし、内容のレベルも高い。他の学生はライバルだと考えていたので、毎日が戦いでした。でも、頑張った分だけ自分の身になるフェアな場所、それが慶應SDMだと思います。

現在は国土交通省で東日本大震災の復興事業に関わっています。まさにこれこそ複雑で大規模なシステムの問題であり、慶應SDMで勉強したことをぶつけていかなければならない仕事です。今後何十年かかるかわかりませんが、自分の人生をかけるつもりで取り組んでいます。



修了生 高峯 聡一郎

2008年秋入学、2010年9月修士課程修了
1999年3月東京農工大学農学部卒業
勤務先: 国土交通省

研究科全体がひとつのコミュニティです。

修了生 辻 英美子

2008年春入学、2010年3月修士課程修了
2008年3月慶應義塾大学理工学部情報工学科卒業
勤務先: (株) 野村総合研究所



新卒で慶應SDMに入って、最初に驚いたのはとても意欲的な社会人学生の方が多いことでした。例えば、授業で質疑になると、みんなが質問しようと手を挙げて、そこから熱い議論になるんですね。ある人が「情報システムの世界では～」と話すと、別の人が「宇宙開発の場合は～」と話したりする。そうしたジャンルを超えた議論がとても刺激的で面白かったです。

入学する前、慶應SDMは、すでに何らかの専門性を持つ人が物事を広く見る視点を学ぶところのかな、という印象を持っていました。新卒だとまだそれほど専門性を身につけているわけではありませんから、本当に社会に役立てる人材になれるのか、ちょっと心配だったんですね。でも、実際には、授業や研究を通じて、全体を見る視点を持つと同時に、専門性も深めていくことができます。

私の場合は入学前から環境について何かやりたいと考えていたこともあって、太陽光発電と蓄電池を世帯間で共有するシステムについて専門的に研究しました。

一方で面白いのは、そうした専門的研究についてもいろいろな方から幅広い意見をいただけることです。例えば、電力の問題についても、文系出身の方からは企業や政府の視点について教えていただきました。慶應SDMは、社会人・新卒、文系・理系、年代、国籍、本当にさまざまなバックグラウンドの方がいて、しかも研究室の垣根を超えて研究科全体がひとつのコミュニティという感じでした。今でも修了生で集まることありますが、モチベーションが高くて新しい分野に挑戦されている方が多い。「今、何をしていますか？」とお話を聞くだけで、新しい世界が開ける感じです。

在学生・修

自分の発見したいことを探し、 自分自身を探求できる。

在学生(修士課程) ジョン・テイントン

2011年秋入学
2008年11月 University of Pretoria, Department of Systems & Industrial Engineering 卒業
前職:自動車メーカー現地法人



南アフリカの大学を卒業した後、日本の自動車メーカーの現地法人で約3年勤務し、現在は奨学金で留学しています。大学ではインダストリアルエンジニアリングについて学び、会社ではサプライチェーンマネジメントや設備計画などに携わっていました。慶應SDMを選んだ理由は、システムズエンジニアリングの知識を深めたかったことと、マネジメントだけでなくデザインやクリエイティビティについても学びたかったからです。クリエイティビティには多視点でものを見て、それらを統合させることが大切だと思いま

す。南アフリカと日本は全く文化や考え方が異なります。常に人とは違う視点を持つのが留学生のメリットです。例えば、南アフリカでは仕事とプライベートは完全に切り離されますが、日本ではその境界があいまいです。こうした違いから学んで、スタッフの人材育成やマーケティング活動などに役立てることができそうです。

慶應SDMの学生は皆オープンで互いに助け合う精神があります。初めは日本語が難しく緊張していましたが、学生が集まっている「大部屋」に行けば気軽に何でも話せる

のでリラックスして留学生活を送っています。慶應SDMは自分の発見したいことを探せる場所であると同時に、自分自身を探求するための場所。卒業したらここで学んだことを活かして起業したいと考えています。キャンパスではKBS(慶應ビジネス・スクール)やKMD(慶應メディアデザイン研究科)の学生との交流も活発なので、多分野の人脈を築きながらいろいろなアイデアについて話し合っていきたいです。



いろいろな人に出会える。 自分の幹が太くなる。

在学生(修士課程) 森 崇

2011年春入学
2003年3月京都大学総合人間学部卒業
前職:ソフトウェアベンダー

ソフトウェアのセールスエンジニアの仕事を5年ほど経験してから慶應SDMに入りました。志望理由は工学の勉強と、物事をシステムとして捉える勉強を同時にやりたかったからです。実際に入学してみて、システムズエンジニアリングについて体系的に教えていることに感銘を受けました。1年目のデザインプロジェクトでは、日本企業のベトナムにおけるオフショアビジネスを円滑に進める方法について、5人のチームで取り組みました。当事者や専門家にヒアリングすることから始め、ベトナムの地域性や人

の性質などを含むベトナム企業側の課題だけでなく、社内コミュニケーションなど日本企業側の課題についても調べたうえで、解決策を提案しました。たまたまある展示会を視察した際、素人だった私たちの提案と同じアイデアが最新製品として発表されていて、驚いたと同時に、慶應SDMで学んでいる内容がいかに実践的であるかを実感できました。今は西村秀和先生のラボに所属していて、モデルベースシステムズエンジニアリングの表記法のひとつであるSysMLの実用書に関

する翻訳プロジェクトのお手伝いをしながら、基本的な考え方をマスターできました。一方、林美香子先生のラボでは東北地方を視察して、地元の人々や役場の方と協働で観光ツアーを企画して実施するというプロジェクトも経験しました。慶應SDMはいろいろな分野の人に出会う機会の多い場所だと思います。そして、システムズエンジニアリングやデザイン思考という根っこを持つことでそうした出会いからいろいろな視点を学ぶことができ、自分の幹を太くしてくれていると思います。

了生の声

生きていくための基礎を整えられるところです。

中国・瀋陽の大学を卒業して電機メーカーに3年ほど勤務した後、システムズエンジニアリングやロジカルな思考について学ぶため、慶應SDMの第1期生として日本に留学しました。新しい大学院なのでどんな人があるのか楽しみでしたが、個性的でパワフルな社会人が多く、年齢層も業界も幅広くとても面白かったです。皆さん発言力や行動力があって、時にぶつかることもありますが、人との接し方なども勉強になりました。当時は第1期ということもあり、先生と学生が一緒に模索しながら新しい学問を作っていくという雰囲気でしたね。研究テーマも自分で選べるし、メソッドも自由。それだけに学生が主体的に取り組まなければなりません。先生方もきちんと目を配ってサポートしてくださいました。今の会社では資材の購買を担当していま

す。社内ですべてのプロジェクトが進んでおり、システムズエンジニアリングで学んだことを日々使いこなしているという感じです。大きな問題に見えるものもVモデルで分解していくと要素がはっきりするので対応しやすくなります。また、サプライヤーとの交渉の際は、価値観の違いを理解したうえでお互いが納得できるように進めなければなりません。その際には授業で学んだ思考のパターン、物事を考える流れ、コミュニケーションの方法がとても役に立っています。慶應SDMはこれから生きていくための基礎を整えられる場所だと思います。知識だけでなく考え方や視野も含めて、世界で活躍するためのベースを得ることができます。私も今後はもっとキャリアを積んで、日本や母国だけでなくさまざまな国で働いてみたいですね。



修了生 李明

2008年春入学、2010年3月修士課程修了
2003年7月遼寧大学経済学部卒業
勤務先:住友スリーエム(株)

基礎データ

2015年4月現在

教員数

専任教員	特別招聘教員	特任教員	講師(非常勤)	訪問教員
11名	15名	16名	28名	3名

男女比(在学生)

2015年4月現在

男女	修士	博士
男	114	34
女	38	15
計	152	49

年齢分布(在学生)

2015年4月現在

年齢	修士	博士
22～24歳	50	0
25～29歳	34	8
30～34歳	20	5
35～39歳	18	3
40～44歳	14	15
45～49歳	9	8
50～54歳	3	3
55～59歳	4	3
60歳～	0	4
計	152	49

留学生の国籍

2015年4月までの受入実績

イタリア、イラン、インド、インドネシア、オランダ、サウジ・アラビア、シンガポール、スウェーデン、スロバキア、タイ、デンマーク、ドイツ、ネパール、フランス、ベトナム、ペルー、ポーランド、マレーシア、メキシコ、モロッコ、大韓民国、中国、中国(香港)、中国(台湾)、南アフリカ、米国

社会人経験者の出身業種

2015年4月現在

社会人経験者(Webエントリーに基づく)	
修士	81
博士	16
計	97

※業種分類は入試のWebエントリーの分類に基づく

業種別	人数
建設業	2
製造業	23
情報通信業	16
運輸業	1
卸売・小売業	2
金融・保険業	4
医療・福祉	3
教育・学習支援	7
サービス業	10
公務員	5
その他	24
計	97

過去の主な進路

(博士課程進学を除く)

中央官庁、地方公務員、大学、CSKホールディングス、DIIネクスト、iDC、KDDI、Meiji Seika ファルマ、NTTデータ、UBS証券会社、アクセンチュア、アジレント・テクノロジー・インターナショナル、アメジスト、イーソリューションズ、インナーライズ53、インフォコム、ウォルト・ディズニー・ジャパン、エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所、エヌ・ティ・ティ・ドコモ、キヤノン、コーエーテクモホールディングス、コクヨ、コムシス情報システム、スズキ、スタンレー電気、ソニー、トヨタテクノクラフト、トヨタ自動車、トヨタ紡織、ドン・キホーテ、ナノオプトニクス・エナジー、ニッセイ情報テクノロジー、ブリヂストン、ポッシュ、みずほ証券、モードツー、ヤフー、ヤマハ、ユニクロ、ランド・ハウス工業、リクルート、リコー、リコーITソリューションズ、レオズインターナショナル、ロイヤルバンク・オブ・スコットランド・ピーエルシー、ワークスアプリケーションズ、宇宙航空研究開発機構、神奈川県民共済生活協同組合、国際石油開発帝石、志学館、清水建設、新生銀行、住友スリーエム、住友精密工業、住友生命保険、住友電工情報システム、損害保険ジャパン、大成建設、千代田アドバンスソリューションズ、電通、電通国際情報サービス、電力中央研究所、東京海上日動リスクコンサルティング、東京ガス、東京証券取引所、東京電力、東芝、東北電力、日和産業、日本アイ・ピー・エム、日本イーライリリー、日本インターグラフ、日本銀行、日本経済新聞社、日本コムシス、日本電信電話、日本ビューレット・バックカード、日本有人宇宙システム、野村證券、野村総合研究所、日立グローバルストレージテクノロジーズ、日立製作所、富士ゼロックス、本田技術研究所、丸紅、三井住友海上火災保険、三井物産メタルズ、三菱総合研究所、三菱電機、三菱ふそうトラック・バス、三菱UFJインフォメーションテクノロジー、村田機械

修了後のキャリア

システムの視座を持つリーダーへ。そして、その先へ。

産業界では、大規模・複雑システムをデザインし、プロジェクトを的確にマネジメントしながら成功に導ける人材のニーズが非常に高まっています。慶應SDMでシステムズアプローチを習得し、プロジェクトリーダーや経営者となる素養を身につけた修了生は分野を問わず活躍しています。

社会人修了生～SDM学を活かしてリーダーシップを発揮

社会人経験のある修了生は、技術系ならば、シニアプロダクトマネジャーや、システムアーキテクト、ハードウェアやソフトウェア開発のディレクターとして活躍しています。社会科学系ならば、サービス産業のシニアマネジャーやディレクター、コンサルタント、事業会社の戦略企画マネジャーなどの立場で戦略企画に参画し、システムズエンジニアリン

グやデザイン思考を活かしてリーダーシップを発揮しています。また、会社経営に進む者、公務員やNPO/NGO職員として国家や地方のために活躍する者、教育・研究、法曹など専門職として能力を活かす者など、多彩な人材を送り出しています。

新卒修了生～未来のリーダーへ

新卒者は、プロジェクトに貢献しながら必要な経験を積み、近い将来、大規模・複雑システムの構築、運用を任せられるプロジェクトリーダーに成長することが期待されています。また、自らベンチャー企業を立ち上げて起業家となる者や、博士課程に進学して

SDM学の研究や普及に取り組んでいる者もいます。

国際的な人的ネットワークを形成

このように、慶應SDM修了生の活躍の場はあらゆる業界に広がっています。慶應SDMで育った修了生は国際感覚豊かで異文化への対応力があるため、国内、海外を問わず力を発揮できることが強みとなっています。また、修了生がいろいろな業界のキーパーソンとして活躍しているため、慶應SDMで培われた人的ネットワークがビジネス上の貴重な財産となっており、そこから新たなビジネスチャンスも生まれています。

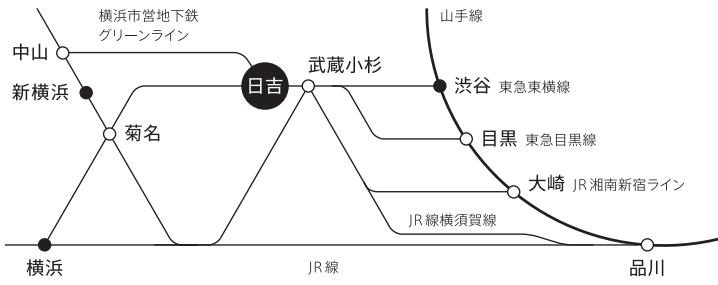


国際教育連携

慶應SDMはSDM学の教育方法を、システムズエンジニアリングの先端研究を行っているマサチューセッツ工科大学 (MIT、アメリカ)、デザイン思考で知られるスタンフォード大学 (アメリカ)、およびデルフト工科大学 (オランダ) と共同開発し、「デザインプロジェクト」等の科目で実践して、改善を重ねています。また、研究科独自の留学制度も用意しています。MIT、スタンフォード大学、デルフト工科大学、フランス国立理科大学トゥールーズ校 (フランス)、ミラノ工科大学 (イタリア)、スイス連邦工科大学チューリッヒ校 (スイス)、パデュー大学 (アメリカ)、アデレード大学 (オーストラリア) 等との交流があり、毎年、多くの学生が留学に旅立っています。留学先で取得した単位は、修了に必要な単位として認定されることがあります。また、MITのSDMやデルフト工科大学などから多くの学生が慶應SDMに学びに来ています。

留学実績

大学名	留学者数					
	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
マサチューセッツ工科大学 (MIT)	派遣1名	派遣1名 受入1名	-----	受入3名	派遣1名	-----
スタンフォード大学	派遣1名 受入1名	派遣なし 受入1名	派遣なし 受入1名	-----	-----	-----
デルフト工科大学	派遣3名 受入3名	派遣5名 受入5名	派遣2名 受入3名	派遣6名 受入7名	派遣2名 受入5名	派遣6名 受入3名
フランス理科大学 (INSA) トゥールーズ校	-----	派遣3名 受入なし	派遣3名 受入なし	派遣1名 受入2名	派遣2名 受入1名	派遣2名
ミラノ工科大学	-----	派遣2名 受入1名	派遣なし 受入なし	派遣2名 受入2名	派遣4名 受入2名	派遣1名 受入2名
スイス連邦工科大学チューリッヒ校	-----	派遣2名 受入1名	派遣1名 受入2名	派遣1名 受入1名	派遣3名 受入2名	受入2名
パデュー大学	-----	-----	派遣2名 受入1名	派遣1名 受入1名	派遣4名 受入7名	派遣2名
アデレード大学	-----	-----	-----	派遣2名	-----	-----
コペンハーゲン大学	(2013年新規)				派遣1名 受入1名	派遣2名 受入1名
ケンブリッジ大学	(2014年新規)					派遣1名



交通アクセス:「日吉」駅直結(東急東横線、東急目黒線、横浜市営地下鉄グリーンライン)

- 渋谷～日吉:急行 18分(通勤特急 16分)、横浜～日吉:急行 12分(通勤特急 10分)、新横浜～菊名～日吉:14分
- 東急東横線の特急は日吉駅には停まりません。



慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科

〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4-1-1
Tel:045-564-2518 Fax:045-562-3502 E-mail:sdm@info.keio.ac.jp

www.sdm.keio.ac.jp

設置研究科・専攻	募集人員	授与する学位
システムデザイン・マネジメント研究科	修士課程 77名	修士 (システムエンジニアリング学) 修士 (システムデザイン・マネジメント学)
システムデザイン・マネジメント専攻 (修士課程/後期博士課程)	後期博士課程 11名	博士 (システムエンジニアリング学) 博士 (システムデザイン・マネジメント学)

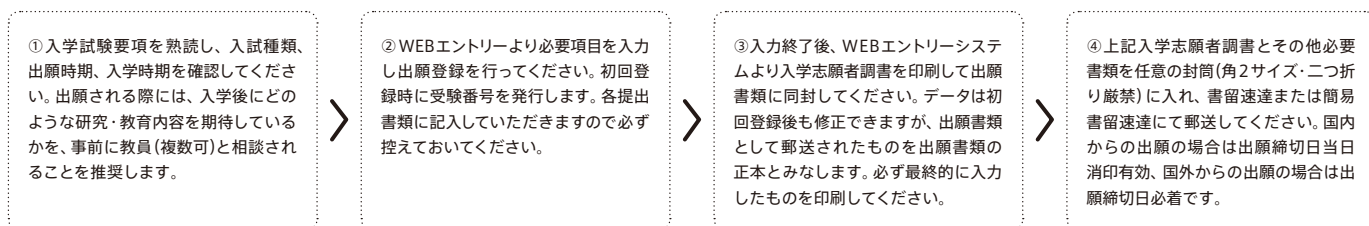
必要な経費	修士課程	後期博士課程
2015年4月入学者	2,082,600円	1,332,600円
2015年9月入学者	1,141,350円	766,350円

※学費は年度ごとに納めていただきます。9月入学者の金額は秋学期分のみとなります。
※2016年度の費用は変更される場合があります。

奨学制度	給付額
慶應義塾大学大学院奨学金	給付年額 600,000円 (期間:1年間)
小泉信三記念大学院特別奨学金	給付月額 30,000円 (期間:1年間)
日本学生支援機構奨学金	修士 貸与月額 (第1種) 50,000円または88,000円
	後期博士 貸与月額 (第1種) 80,000円または122,000円
指定寄付奨学金 (三田会等)	
地方公共団体・民間団体奨学金	
大学院システムデザイン・マネジメント研究科特別奨学金	

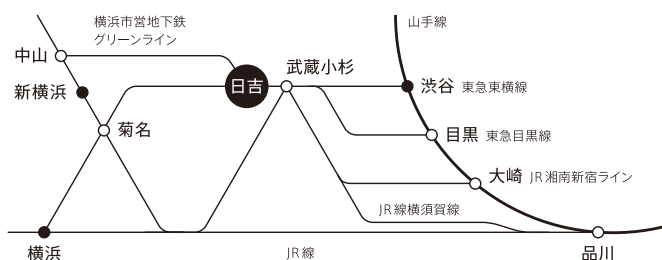
出願方法

※詳しくは、慶應SDMウェブサイトをご覧ください。http://www.sdm.keio.ac.jp/admission/



出願・選考日程	I期	II期	III期
Webエントリー期間 ^{*1}	2015年5月15日(金)～5月28日(木)	2015年9月11日(金)～9月24日(木)	2015年12月23日(水)～2016年1月7日(木)
出願期間 ^{*2}	2015年5月25日(月)～5月28日(木)	2015年9月21日(月)～9月24日(木)	2016年1月4日(月)～2016年1月7日(木)
出願締切	2015年5月28日(木)	2015年9月24日(木)	2016年1月7日(木)
1次選考合格発表	2015年6月12日(金)	2015年10月9日(金)	2016年1月22日(金)
2次選考	2015年6月20日(土)・21日(日)	2015年10月17日(土)・18日(日)	2016年1月30日(土)・31日(日)
2次選考合格発表	2015年6月23日(火)	2015年10月20日(火)	2016年2月2日(火)

※1 Webエントリーシステムは出願締切日まで稼働しています。
※2 日本国内からの出願は締切日消印有効、日本国外からの出願は締切日必着です。



慶應義塾大学大学院
システムデザイン・マネジメント研究科

〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4-1-1
Tel:045-564-2518 Fax:045-562-3502 E-mail:sdm@info.keio.ac.jp

www.sdm.keio.ac.jp

交通アクセス:「日吉」駅直結(東急東横線、東急目黒線、横浜市営地下鉄グリーンライン)
●渋谷～日吉:急行18分(通勤特急16分)、横浜～日吉:急行12分(通勤特急10分)、
新横浜～日吉:14分
●東急東横線の特急は日吉駅には停まりません。